

# くらしの窓



## 薬は正しく使いましょ

薬は私たちの健康を守るのになくてはならないものです。的確な薬の使用はすばらしい効果をあらわします。

しかし、その反面、薬の多くは身体に神経やいろいろな器官の働きに変化を与えますから、使い方を誤ったり体質に合わなかったりすると、作用が強くなりすぎたり副作用が現れたりすることがあります。

薬は自分の症状や体質にあったものを適量な時期に必要な量だけ使用すると、これが正しい使い方といえます。

### 1、正しい購入

薬剤師などの専門家に自分の状態を充分に伝えてから適当な薬を購入することです。とくに次のような場合は、購入の

場合予めその旨を伝えておくことです。

- ・他にいろいろな症状が重なっている時
- ・他の薬をのんでいる時
- ・高血圧、心臓病などの慢性病がある時
- ・アレルギー体質の人
- ・乳幼児、老人、病弱者、妊婦

### 2、正しい使用

薬を使う前に、まず添付文書（能書）をよく読むことです。用法、用量、使用上の注意、能書などを熟知したうえで使用してください。

- ・用法・用量は正しく守る
- ・注意事項があれば、これに従う
- ・他の薬との併用は専門家に相談したうえで行う

### 3、正しい管理

いくら完全な薬であっても、保存や取り扱いが悪いと事故の原因になります。

- ・乳幼小児の手の届かない所に保管する
- ・湿気、日光、高温は避けて保管する
- ・使用後はふたをきちんとしておく
- ・できるだけ新しい薬を使用し、使用期限の入っているものは注意する
- ・変色したり異臭のするものや、あまり古くなった薬は使わない、購入年月日を書いておくと安心です



# 民話

## 肥後の民話

### ぼた餅と仏さん

原口長之

むかし、阿弥陀寺町のある寺に和尚さんと小僧さんがいました。

ある時、檀家からぼた餅を持ってきました。和尚さんは「こらあ、うまかたる、すぐ食おうか」と思いましたが「まあ、まあ、仏さんに供えちかるとお供えしたばかりのところに檀家から葬式を言ってきました。仕方がないので葬式に行きました。

留守番の小僧さんも、ぼた餅が欲しくてたまりません。「いっちょだけ食うちみゆう」と食い始めましたが、もう一つ、もう一つと、とうとうみんな食ってしまいました。

小僧さんは困ったあげく、仏さんの口

ぼたにあんこをべたべた塗りつけて知らん顔をしていました。

和尚さんは、ぼた餅を楽しみに急いで帰ってきました。帰るより早く仏前に行ってみると、これはしたり、一つもありません。かんかん怒って小僧さんと呼びつけると、

「お前は、ぼた餅ば食うちもしたな」「いいえ、食いまっせん」

「お前が食わにや誰が食うもんか」「ああ、わかった。こらあ仏さんの食いなはったですばい、ほら、口ばちやいっばいあんこのついとりますばい」見ると、なるほどあんこがついています。

「わしが楽しみしとったば食うてしもち」

怒った和尚さんは棒を取りあげると仏さんの頭を叩きました。

「クワン、クワン」

と音がしました。

「仏さんが嘘ば言うちけしからんとまた叩くと」

「クワン、クワン」

怒った和尚さんは仏さんを泉水にほうりこみました。すると仏さんは

「クタ、クタ、クタ、クタ」

と音をたてながら沈んでいきました。

(随筆家)

# この人と30分

このコーナーは県出身者で各界のトップとして活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。



## 手づくりを着せる

服飾研究家 原田 茂

「せめて子供服ぐらいは母親が縫って欲しいですね、親子の間に気持ちの通い合いが生まれます」。大きな手振りで手づくりの味を強調する

原田さんは、元文化服装学院長、服飾研究家というよりも家庭的な優しいおばあちゃんといった印象が強い。

服飾五十年、日本の洋服の歴史とともに歩んできた原田さん、今なお、元気に文化女子大で後進の指導に当たっている。明治二十九年合志町生れ。尚綱高女卒業。後大正十二年文化裁縫学校（現文化服装学院）に入学、昭和三十五年から四十六年まで第五代院長。

昭和四十二年勲四等瑞宝章受賞  
現在文化女子大教授。七十八歳  
現住所 東京都新宿区西大久保三丁目

### 尚綱高女に学ぶ

生れは合志町です。私の通った栄小学校は小規模校のため四年までしかなく、残る二年を豊岡小で学びました。

複式学級でした。一学年二十名程で、一クラス四十名程居たのを覚えています。もちろんみんな着物姿ですよ。

祖父は非常に頑固な人でね、女には学問はいらんということを常日頃言っていましたので、私は女学校に進学するなんてことは夢にも思っておりませんでした。ところが、その祖父が私の六年生の時に亡くなったんです。私の父は当時としては進歩的だったんでしよう。それに栄小学校の校長先生の進言もあって、高等小学校一年の時尚綱高女に進んだのです。

私の友達の中には県立に進学したのもいました。私が、女子教育は私立でなければという父の強い考えで尚綱高女に入っただけです。

当時、学校は高田原にあって本科四年、技芸科二年がありました。

私は三年まで校内にあった校長住宅に十二、三人程の生徒と一緒に世話になりました。ここで「良妻賢母」の尚綱精神をきびしくたたきこまれたように思います。きびしかったですよ。箱枕でない寝せてもらえませんでした。

私が三年の時、現在地に移転しました。当時、クラスは甲、乙、丙の三クラス